並木ドリーム　第161号　2017. 1. 23

茨城県立並木中等教育学校　校長通信

４年次・２年次の数学で「TO学習」を実施しました。

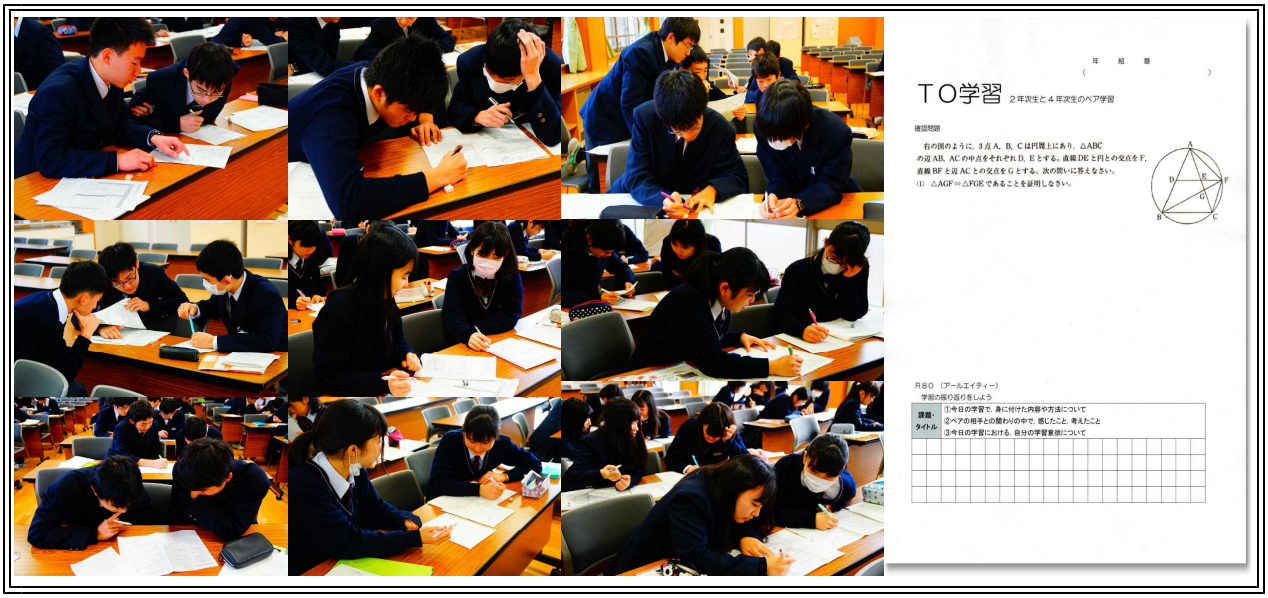
1月19日(木)，新しい「アクティブ・ラーニング」として，私の考案した「ＴＯ学習」（読みは「ティーオー学習」）が本校の総合実践室ではじめて行われました。

この学習の「ＴＯ」とは，「Teaching Others（他の人に教える）」の頭文字です。さらに，「ＴＯ学習」には「深い学びへ」というサブテーマも込めています。

具体的には，「縦割りのペアワーク」です。本日は，４年次生（高１）が２年次生（中２）に数学を教えるというミッションでした。ワークの流れは以下のようでした。

①自己紹介 → ②２年次生が実力テストの数学について質問 → ③４年次生が解説する →④同じ確認問題を解く → ⑤「Ｒ８０」で振り返り → ⑥英語でお礼と先輩からの激励！

数学科の先生たちのチームワークで素晴らしい企画になりました。今日１日で両年次の全４クラスが実施できました。２年次生●と４年次生●の「Ｒ８０」を掲載します。

●先輩が１つ１つ丁寧にポイントをおさえて教えてくださり，図形のコツがよく分かった。また，良い学習法などもアドバイスしてもらえて今後に活用したいと思った。
●自分１人で解説を見て解くよりも教えてもらった方が分かりやすいなと感じた。また，今ならっているところを身につけておくと後期になって楽という話を聞き意欲がわいた。
●実力テストでは，自力で解けない問題がたくさんあり，見直してもよく理解できなかった。でも，今回先輩と一緒に考えることで，難しい問題を理解できたので，感動した。
●今回４年生に教えてもらうことで，自分でやったことのなかった解き方や簡単でやりやすい解き方が分かった。とてもいい経験になったので，こういう学習をもっとしたい。

●相手にわかりやすく教えられるように，説明の仕方を工夫するよう意識した。また，問題を教えながら，数学を勉強するのはインプット，アウトプットどちらも必要だと感じた。
●今日の学習のように人に数学を教えることで，自分には教える力，相手には数学の理解力がつき，お互いに良かった。相手に教える方が一人で勉強するよりも力がつくと思った。
●自分が一方的に話すだけだと，教わる側のペースと合わない。しかし，お互いの意見を発表しながら進めると，学習に対する理解が深まり，より記憶に残る時間になると思った。
●しっかり教えるために自宅で予習をし，そのことが自分の復習になった。また，理解してもらうには相手の考えをまず自分が引き出し，理解してから説明すると良いと分かった。